

電信寫

贈報誌 一九〇一八 略

青島 十七日午前發
本省 八月十七日午前發

五、人

大隈總督大臣

大隈總督專

第三五七號

漢口、蕪湖、宜昌、長沙、鄭州、沙市各公館長ヨリ

三省軍務公館首長員七十一名（團長六名、副員八名、警察官五十七

名）旅員三名、南京職員一名、警察官六名、職員三名、南京陸軍

軍官八名、海軍武官五名、太原警察機關員五名、南京海軍部

員二名、漢口居留民十八名（漢口ニ居住リタル者二名アリ）官

京居留民八名（内新聞記者七名、日清「ハルクマスタ」一名）

大東丸、岳陽丸乗組員十六名、合計百四十五名十六日午後五時半

無事青島ニ到着セリ

三日下上海へ出張中ノ看漢口小林副領事、岡村、若田兩部長、高田

巡査、重慶志波者長、平田巡査、宜昌笠井者長代理、長沙和國者

長

三向隨者員消息ハ夫々留守宅へ歸報報頻度シ

關係各公館へ轉電アリ度シ

七平、天津、上海へ轉電セリ

0035

秘

昭和12

一九八〇六 暗

廈門 本省

八月廿二日 後發

亞

廣田外務大臣

高橋總領事代理

第六一號

本官發台灣外事課長宛電報

第三一號

上海方面ノ戰況發展ニ伴ヒ當地ノ空氣逐次緊張ノ度ヲ加ヘツアル
處多數居留民ヲ擁スルコトトテ萬一ノ場合ヲ慮リ不取敢婦女子ヲ引
揚ケシムルコトトセルニ付昨十六日當地發香港ニ向ヘル廣東丸ハ荷
役済ミ次第直ニ當地ニ引返サシメ十八日基隆着香港丸ハ同地ヨリ折
返シ當地ニ向ハシメアル上直接基隆ニ寄航セシメ福建丸ハ十八日當

電信寫

地着後高雄（出來得ノ、基隆）ノ直航セシメ度シ又右三船共避難民
輸送後更ニ折返シ當地ニ引廻ハサシメ度ク右至急手配方大阪商船ニ
御下命相成度ク何分ノ御回電ヲ請フ
大臣、上海、福州、香港へ轉電セリ

0036

電信寫

附 録 一 九 〇 三 一 平 長 崎 十 七 日 前 發 本 省 八 月 十 七 日 前 着 亞

東 亞 二 課 長 田 中 理 事 官

貴 電 了 承 ス 今 日 午 後 長 崎 丸、上 海 丸 入 港 二 千 餘 名 上 陸、内 約 千 五 百 名 宿 屋 へ (自 費) 約 三 百 後 十 時 半 臨 時 列 車 ニ テ 出 發 救 護 三 百 ニ テ 本 日 發 ノ 分 ハ 汽 車 賃 支 給 セ ル モ 明 日 ヨ リ ノ 分 ハ 知 事 ノ 証 明 ニ テ 後 拂 ト ス ル 管 人 夫 二 百 二 十 九 名 十 時 乘 船 濟 ニ テ 明 日 朝 五 時 出 帆 條 件 ハ 上 海 ヨ リ 返 事 ナ キ ニ 依 リ 一 日 二 回 及 滬 里 ヨ リ ノ 旅 費 支 給 ノ コ ト、ス 明 日 滬 洋 丸 入 港 ノ 管 ナ ル カ 佐 世 保 へ モ 御 用 船 ニ テ 千 七 百 名 到 着 ノ 由 照 ヨ リ 三 名 今 夜 同 地 へ 赴 ケ リ (了)

0037

電信寫

昭和12 一九〇五三 平

自京 十七日午後
本省 八月十七日午後

班 人

廣田外務大臣

川越大使

第(虎)號(至急)

本使發濟南、天津宛電報

合第七六三號

- 一 漢口其ノ他各地ヨリノ引揚者ノ乗車セル特別列車(邦人引揚者百四十五名、印度人及支那人「ボイ」各一名)ハ本十五日午前十時十五分浦口ヲ出發セリ
- 二 護衛ノ爲外交部員李捷才(帝大出身)及孫秉乾(早稻田出身)並憲兵約四十名乗車ス

三 右列車ハ特別車、三等車、二等食堂車、二等車、一等車、貨物車及手荷物車ノ七編成ナリ

四 青島ニ直行ス(約三十二時間ヲ要スル見込青島ニ着時間及停車時間ハ未定)

五 車中ニ食物ノ用意アリ

六 支那政府ヨリ沿道各驛、山東省政府及青島市政府ニ電報ノ手配ヲ本電報先済爾、天津

大臣ヘ電報セリ

0038

秘

電信寫

昭和十二年九月五日

本館 八月十七日發着

内田總領事

第一四五號

本官署發着外務部長宛電報

第九六號

長沙。大球。盛京。三隻ニテ引揚内地人婦女一〇、婦民六〇〇名（乗船實數ハ多少相違アルヤモ測ラレス）本十七日當地發着陸ニ向ヒツツアリ可然御手配請フ

尙盛京丸引揚船民中「チブス」患者三名アリ博愛醫院醫師及看護婦附添ヒ充分注意ヲ加ヘ甚陸着ト同時ニ同地病院ニ入院方博愛側ニテ

聯絡シ置キタル由ニ付可然御配慮アラタシ

大臣へ電電セリ

0039

電信寫

昭和十一年八月十七日午後

京阪 本省 八月十七日午後

東京

松澤副外務部長

第三三號

受取以系録内仕留中國人ニシテ引揚クル者多キヲ加ヘ來ル者有リ
邦國ノ財政代金未拂ノ者約一五〇名其ノ金額約一三〇萬圓ニ上リ
リ中ニハ預付金引ヲ所持シ乍ラ之ヲ協シ學費ニ依ル急務國ヲ口
トシテ借金未整理ノ引揚タル者少カラサル爲ニ邦商團ヨリ積々
前アリタルヲ以テ不収取在邦中國領事ヲ招致シ中國人未納者各
海ヲ提示シテ引揚爾ニ是等計夏代金ノ支拂ヲ爲ス様申入レ置キル
ニ行進報ス

0040

秘

照和以 一九〇八九 暗 青島 十七日後着

本省 八月十七日後着

並

廣田外務大臣

大廳總領事

第三五九號

本官發上海宛電報

第三〇號

漢口小林副領事へ松平ヨリ

本官今般高野書記生ト共ニ歸朝ヲ命セラレタルニ付（上海經由ノ豫定）貴官ニ於テ居留民救護事務ニ當ラレ度ク尙定塚書記生ハ貴地ノ館務ニ從事スルコトトナリ極山通譯生モ赴滬ノ筈ナル上警察官ノ過半数モ貴地在勤ヲ命セラレ居ルニ付上海總領事館トモ緊密聯絡ノ上

電信寫

左記本省ヨリノ訓令ニ依リ前記事務ノ處理ニ遺憾ナキヲ期セラレ度

シ

一、引揚居留民ノ救護ハ民會ヲシテ行ハシメ現物給與ヲ原則トシ民會

ニ於テ立替拂ノ形式ヲ取り米、味噌、薪炭代等ノ受領書ニ依リ交

付スルコト

ニ民會ニ救護日支救護人員名簿ヲ作成シ出入ヲ明記シ之ヲ證憑書類

ニ添付セシムルコト

三、内地引揚後ニ於ケル生活費ノ補助等ハ内務省ノ所管タルコト

尙民團所有ノ復活資金ノ殘金ハ此ノ際上海總領事館ニ保管ヲ依頼セ

シムルコト至當ナルヤニ認メラル（了）

大臣へ轉電セリ

0041

秘

電信寫

昭和十七年八月十七日午後九時

本署 八月十七日抄

同本署領事

九五四四一六五五

本日正午頃工部局、支那領事館を訪問し、津浦線山手線各線電線が落下し、
電線がマリアキストリに落ち、津浦線が一時（日本橋）から山手線
一タリ、ク一具、東ニ撤退方開始決定の措置ヲ開始セルヲ以テ、
テ、東ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、
ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、
アリ、東ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、
撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、東ニ撤退方ニテ、

日本汽船内ニ最容方手配スルコトナレリ
向虹口方面居留民ニ避難所ニ選シ「アムステルダム」
「ドゥムイ」
「コンロン」等ニ避難所ヲ指定シ、
取付ニ決セリ

0042

電信寫

明治卅一年八月十七日

上海 十七日午後

電

田中事務大臣

閣下御前

第九五號(五)

甲斐縣官口ヲ表野縣邊沿流長ヘ左ノ如リ

十七日午前十時自野縣ニ着ク自外前ハ一向野村分ニ電報送致ス良ク

一校通知有テ

十六日午後一時上野縣邊沿流丸ニテ千五百名(一)野村分上野(一)十七日

夜野村分ノ電報丸ニテ約一千名尙レモ送ニ野女子學校ニ上野

十八日午後ノ野村分見込六千名目下野村分下ニアリテ野村分不分明

野村分送ノ通信ニテ御承知アリタシ(了)

0043

秘

電信寫

昭和二十一年八月十七日午後

廣州外務大臣

坂本莊吉外務大臣

合第...

...

...

...

...

...

...

0044

REEL No. A-0234

アジア歴史資料センター

電信寫

昭和12 一九二〇 略 上海 十七日夜發
本省 八月十七日夜着

人

岡本總領事

岡本總領事

第九五八號

米國總領事館ヨリノ通報ニ依レハ日高參事官一行ハ「ジョンソン」
大使ノ歸旋ニテ外交部代表者及憲兵ニ附添ハレ十六日午後四時五十
分南京發津浦線ニテ青島へ向ヒタル旨同大使ヨリ通報アリタル由ナ
リ
然ルヘク特電アリタシ

0045

秘

電信寫

昭和十七年八月十七日

寄島 本宿 八月十七日 夜着

島

廣田外務大臣

大廳總領事

第三六一號

貴電第一二二號ニ附シ

御來示ノ人員ハ船ノ設備ヨリ之カ收容極メテ困難ナリ強イテ收容スルニ於テハ衛生的見地ハ素ヨリ昨今ノ如キ天候ニ於テハ極メテ危険ナルヲ以テ御來示ノ人員ニハ充タサルモ條件ノ許ス限リノ員數ヲ收容シ出帆セシムルコトト致度ク其ノ代リざいばん丸、黒龍丸ノ如キモ門司ヨリ直ニ當港ニ引返サシメラレ度シ右ハ船會社ニ於テモ希望スル所ナリ(了)

0046

秘

電信寫

昭和二十一年八月三十一日

本館 八月十七日

工務領事代理

第一〇〇〇（秘密）

本館發給電報

第五一號

十七日官報大塚公刊カテ略即置各地出張員ヨリ入手シタル情報五ノ
通り

一、十個、五百頃ヨリ陸軍部ニ轉化方面ニ進リツツアリ

右海軍出張員ハ他各隊員ト共ニ十六日張北ニ進駐セリ

二、張北、多倫方面出張員中婦女子ハ一日目中引揚ニ決定準備中ナ

三、具子勝（「アバカ」）在留邦人（十七、八名）モ特務出張ノ命ニ

依リ引揚準備中ノ地ニテ同公司ハ目下自動車製造準備中ナリ尤モ

右ハ外蒙軍トノ關係ヲ考慮シタルモノニテ陸軍ノ侵入トハ別信

ノ關係ナルモノノ如シ

左記ノ事実、蘭州、承德ニ轉電セリ

0047

REEL No. A-0234

電信寫

電報 一九一三六

臺北 十七日午後
本館 八月十七日發

原

渡田外務大臣

取本館海外課發

第一一六號

廈門發本官報電報

第三〇號

本十七日當地發廣東丸ニテ婦女子一九四名（内地人三九名、籍民一
五五名也）幼兒ヲ當ム引揚ケタルニ付便宜供與方然ルヘク御取計
アリタシ

大臣へ轉電アリタシ

福州へ傳電セリ

0048

電信寫

昭和十一年八月十七日

香港
本館
八月十七日

廣田外務大臣

水鏡

第一一四號

廣東引揚邦人總領事館長ヲ會キ一二二名十七日香港ニ到着セリ

八月八日來着ノ照會

香港外務館長ニ電報セリ

0049

極秘

電信寫

海防部 一九一四年八月十七日

平信 八月十七日

内田 健策

第一五〇番(一) (極秘)

電信部第一號ニ送シ

今次日英交渉ニ付テハ吾國政府へ今迄不協大注進ヲ繼續セサルニ酌
ラニ交渉商ハ吾國ヨリ日英金庫協定案ヲ提出シタリノ既況ニ根據シテ
來リ交渉之ニ引付ラレシニ我々不協大注進ノ意向ニ固キルハ吾人モ固
ルル所ナリ

爾タナル以上金庫協定ニ對テ調停ヲ請フスルノ事ヲキハ實感ナルモ此
ノ旨ニ吾國政府ヨリ強固ナル御答奉サテ之ヲ引付ラレタリトモニテ協定ハ
心ヲラズ之ニ趣ハサレタリシレドモ吾國政府ノ意向ハ之ヲ固クニ保
ツレタリトモノ端ナルヲ以テ不協大注進ノ意向ハ固ク保ツル所ナリ
二十一日ア爾シテ對ニ引付ラ

爾後協定ノ地理的ニ我々協定ニ對テ是等協定ニ對シテ固ク保ツル所ナリ
ニ對シテハ人ノ出ニスル所ナリシレドモ吾國政府ノ意向ハ固ク保ツル所ナリ
一、協定ニ對シテ日英協定十年ノ久シキ河津ノ協定ヲ見ス所ク
テ日英協定ノ五割ノ大半ヲ復シシレリ

コナル事今更ニ金庫協定案ノ提議下サレタル以上吾國政府トシテ日英
交渉商トシテ協定ニ對スル協定ナル事ヲ請テ強ニ強ノ意向ニ
固ク保ツル所ナリ

外務部第一號(七) 日英交渉案ノ協定案ノ意向ニ對シテハ不協大注進ノ意向
ハ固ク保ツル所ナリ

0051

電信寫

昭和12 一九一五〇

平

青島 本省

八月十八日 發
十七日 前着

亞

廣田外務大臣

大勝總領事

第(脱)號

内地引揚者(門司上陸)ニ對シ左ノ通り鐵道乘車證明書ヲ發給シ置ケリ

一 泰山丸

二 門司港ノ森冠

三 乗員五百五十名(男二十三、女二百七十三、子供二百五十四)内
乗車人員(男二百九十四、子供二百三十一)(了)

0052

電信寫

總局 一九一五年二月十七日發

本局 八月十八日發

大田經領事

第三六七號

省府領事ヨリ

博山管内知事局局長益部及警務員一田等十七日午高六時五十分發信被檢列車ニテ午後八時十分青島發到引送ヲ了セリ
支那領事ヨリハ第三陸軍團官長田太平以下手摺兵一連發來セリ
本局奉ニ領事引送指致(傳者長ヲ含ム)左ノ通り
電話一六〇

盛唐管内九

博山管内一五二

北平、天津、上海、海、厦門、芝罘へ轉電セリ

0053

寫

(分類)

電 信 案

外 務 省

上海、天津、北平ニ轉電セリ

省及海軍ト連絡折角努力中ナリ

(男子モ有引揚差支ナシ) 致シ度ク船舶ニ付テハ當方ニ於テモ遞信

考慮シ婦女子ノミニテモ船腹ノ許ス限り早目ニ引揚ケシメラルル様

(原議用紙乙)

0057

| | | | | | | | | | | |
|-------|-------|--|---------|--------------------|----------------|------|-------|-----|----------|---------------|
| 電 信 案 | 外 務 省 | 第一二七號 | 電 送 第 號 | 昭和12年8月17日 11時25分發 | 主 管 | 東亞局長 | 發 電 係 | 主 任 | 東亞局第一課長 | 昭 和 年 月 日 起 草 |
| | | | 名 件 | 宛 | 在青島 大 鷹 總領事 | 發 | | | 廣 田 外務大臣 | |
| | | (暗) | 本 時 | 居留民引揚問題 | 名 件 録 記 | | | | | |
| | | 上海方面ノ情勢ニ鑑ミ海軍ニ於テハ貴地ニ派遣方準備中ノ陸戦隊ヲ モ總テ上海ニ差向クルコトトナリタル趣ニテ萬一ノ場合貴地居留民 ノ保護ハ差當リハ軍艦ニ依ル外ナキ次第ナリ隨テ此ノ如キ場合ヲモ | | | | | | | | |

0058

REEL No. A-0234

寫

(分類)

| | | | | | | | | |
|-------------|-----|--------------|-----------------|------------------|-----|--------------|----------------|-------------|
| 電 信 案 | 十八日 | 原田丸 (一、五〇〇人) | 大連汽船三隻 (三、〇〇〇人) | 華山丸、廬山丸 (一、一〇〇人) | 十九日 | 日光丸 (一、五〇〇人) | サイパン丸 (三、〇〇〇人) | 電 信 案 |
|-------------|-----|--------------|-----------------|------------------|-----|--------------|----------------|-------------|

(原議用紙乙)

0059

| | | | | | | | | | |
|-------------|--------------|---|--------|---------------------------|--|---------------------|-------------|-------------------|--|
| 電 信 案 | 往電第一二七號末段ニ關シ | 往電第一二一號ノ「スケジュール」ヲ左ノ通改ム (十八日大連汽船三隻ハ大連行他ハ凡テ門司行) | 暗 略 | 電送第 昭和十二年八月十七日午後四時三十分發 | 號 第一二九 | 主 管 東亞局長 | 發 電 係 | 主 任 東亞局第二課長 | 昭 和 十 二 年 八 月 十 七 日 起 草 |
| 外 務 省 | | | | 宛 在青島 大鷹 總領事 | 名 件 青島居留民引揚用配船改正及警察 官乗込等ニ關スル件 | 發 廣 田 外務大臣 | | | |
| | | | | | (至急) | | | | |

0058

| | | | | | | | | |
|-------------|-------------|--------------------------------|---------------------------------|-------------------------|-------------------------------|---------------------------------|-------------|------|
| 電 信 案 | 外 務 省 | 四以上各船ニ必要數ノ警察官及民團吏員ヲ乗込マシメ航海中名簿作 | 三、船線ノ都合上可成收容豫定人員ニ充タシムル様豫メ手配アリタシ | 船舶ノ統制ニ當ラシメラレタシ（海軍側ト打合濟） | 況及引揚者ノ狀況等ニ依リ海軍側ト打合便宜司令官ニ依頼シテ各 | ニ、以上各船舶ノ入港、碼頭使用、出港等ノ順序、時間等ハ陸上ノ狀 | 泰山丸（一、五〇〇人） | 二十一日 |
| | | （原議用紙乙） | | | | | | |

0061

| | | | | | | | | | | |
|-------------|-------------|-------------------------|--------------|-------------------|-------------|-----|-----------------------|-----------|-------------|-------------|
| 電 信 案 | 外 務 省 | （右ノ内靖國及波ノ上ハ神戸迄延長スルコトヲ得） | 波ノ上丸（三、〇〇〇人） | 大連汽船三隻（三、〇〇〇人）門司行 | 靖國丸（三、〇〇〇人） | 二十日 | （右ノ内日光以外ハ神戸迄延長スルコトヲ得） | 長崎丸（七〇〇人） | 浮島丸（三、〇〇〇人） | 黒龍丸（三、〇〇〇人） |
| | | （原議用紙乙） | | | | | | | | |

0060

寫

(分類)

| | | | | | | |
|-------------|------|---|-----------------------------|----------------|-------------|--------------|
| 電 信 案 | 一、船名 | 記 | 貴官發行ノ避難者證明書ノ餘白又ハ裏面ニ左ノ事項ヲ追加ス | 電送第 | 號 | 管主 |
| | | | | 昭和十二年八月十七日午後六時 | 分發 | 東亞局長 |
| 外 務 省 | | | | 附 | 宛 | 任主 |
| | | | | 第一三〇 | 在青島 大鷹總領事 | 東亞局第二課長 |
| | | | | 略 | 名 件 | 昭和十二年八月十七日起草 |
| | | | | 號 | 引揚者鐵道運賃後拂ノ件 | |
| | | | | (別電 至急) | 發 | |
| | | | | | 廣田外務大臣 | |

0063

| | |
|-------------|---|
| 電 信 案 | 成、證明書發給等ニ當ラシム |
| 外 務 省 | 五内地ニ於ケル旅費ヲ支給シ得サリシ者ニ對シテハ鐵道運賃後拂トシ無賃乗車方取計フヘシ後拂手續別電第一三〇號ノ通(了) |

0062

(原簿用紙乙)

REEL No. A-0234

寫

(分類)

| | | | | | |
|-------------|----------------------|-----------|---------------------------|----------------|---------------|
| 電 信 案 | 往電第一二九號中二十日ノ波ノ上丸ヲ削除ス | 暗 不 | 電送第 昭和十二年八月十七日午後七時三十分發 | 號 | 管主 東亞局長 |
| | | 第一三二 號 | 名 件 青島居留民引揚用配船改正ノ件 | 宛 在青島 大鷹總領事 | 任主 東亞局第二課長 |
| 外 務 省 | | (至急) | 名件録記 | 發 廣田外務大臣 | 昭和十二年 八月十七日起草 |

0065

| | |
|-------------|---|
| 電 信 案 | 三「後拂」 以上ハ捺印スルコト 三本人ノ支那ニ於ケル在留地名 (了) |
| 外 務 省 | |

(原議用紙乙)

0064

REEL No. A-0234

秘

電信寫

昭和12 一九一六七 暗 青島 十八日前發 亞
本省 八月十八日前着

廣田外務大臣 大廳總領事

第三六八號 (至急)

日高參事官ヨリ

本官及館員一行二十三名 (外交部員一名附添ヒ憲兵六名警護) 十六
日午後五時浦口發途中無事十八日午前零時四十五分青島ニ到着セリ
北平、天津、上海へ轉電セリ

0066

REEL No. A-0234

秘

電信寫

昭和十一年八月十八日發

芝罘 本省 八月十八日後着

頭入

廣田外務大臣

田中領事代理

第八六號

日支關係惡化最近ノ影響ヲ受ケ當市内外ニ於ケル山東軍ノ對日戰備益々緊骨トナリ内外人心動搖甚クシ當地及威海衛在留民ハ十九日迄ニ全部當館館警員ハ二十一日ニ引揚ヲ了スル豫定ナリ
上海、青島、天津へ轉電セリ

0067

REEL No. A-0234

0058

アジア歴史資料センター

電信寫

加部 一九二一年 八月十八日

廣田外務大臣

第一一八號

本官與閣下宛電報

第六七號

貴部九月三日東京ノ代請一及大塚九ヲ本十八日東京發賣票ニ向ケテ
新二條ニテ買取相場ハ完了ノ見込ナリヤ腹内出書等ニ對スル電報ノ
不台アルニ付茲ニ復答アリ成シ
大田へ送付ナリ

0068

電信寫

昭和12 一九二一九 平 上海 十八日午後
本省 八月十八日午後

岡本總領事

第九六二號 (至急)

長崎縣知事へ左ノ通り御傳ヘテ請フ
運送者約一五〇〇人(主ニ婦女子)ヲ軍用船長江丸ニ便乗セシメ同
船へ十八日午八時出帆貴地へ向ヘリ長崎滞在者及汽車上京者組織
ハ船長ヨリ通報ノ管同船ニハ民間ヨリ中林親、藤岡一郎ノ二名ヲ同
行輸送セシメタルニ付要救助者ニ對スル旅費ノ立替支給方ニ關シテ
ハ榮洋丸ノ際同様御取計相煩度シ(了)

0069

REEL No. A-0234

電信寫

昭和12 一九二二六 略

上海 八月十八日 午前發
本省 八月十八日 後着

亞

廣田外務大臣

岡本總領事

第九六〇號

避難婦女子約一五〇〇名^名ヲ軍用船長江丸ニ依リ十八日午前八時長崎
へ引揚ケシメタリ(了)

0070

REEL No. A-0234

電信寫

昭和12 一九二七〇 略

香港 十八日前發
本省 八月十八日夜着

亞人

廣田外務大臣

水澤總領事

第一一五號

中村ヨリ

本官等十一名ノ十八日午前六時香港着ヲ最後トシ廣東居留邦人全部
ノ引揚了セリ

滿、在支各總領事、暨總外事課長へ轉電セリ

上海ヨリ支へ轉報アリ度シ

0071

秘

電信寫

昭和12 一九二七四 略 天津 十八日後發 本省 八月十八日夜着 亞

廣田外務大臣 堀内總領事

第七七二號

往電第七七〇號ニ關シ

其ノ後長城丸ハ青島ヨリ門司ニ赴 コトニ決定セル趣ニテ一方鐵路
ニテハ相當日數ヲ要スル模様ナルヲ以テ海路ニ依ルコトトセリ從テ
門司着ハ豫定ヨリ一晝夜位遅ルルモノト御承知相成度シ
北平、瀋へ轉電セリ

0072

REEL No. A-0234

電信寫

昭和12 一九二八四 平 長崎 十八日後發
本省 八月十八日夜着

堀内外務次官

長崎縣知事

本日樂洋丸本縣避難者六百五十三名内患者十六名無料宿泊九名旅館
低廉斡旋四七名炊出シ二百五十名牛乳二百名旅費立替四十六名、二
百三十二圓五十金夫々救護ヲ了セリ(了)

0073

電信寫

昭和12 一九二九五 略

上海 十八日後發
本省 八月十八日夜着

亞

廣田外務大臣

岡本總領事

第九八四號

十八日正午當地出帆上海丸及長崎丸ニ依リ長崎へ引揚ケタル邦人數
左ノ通

上海丸 八四〇名

長崎丸 一、三六五名

長崎縣知事へ通報済(了)

0074

電信寫

昭和12 一九二九八

略

台北
本省

八月十八日夜着

亞

廣田外務大臣

坂本台灣外事課長

第一二二號

本官發福州宛電報

第六九號

貴電第九九號ニ關シ

貴地引揚者ハ七百名ナルニ付盛京（長沙ハ誤）大球ノ二隻ニ收容

シ得ル筈（厦門ニ對スル配船關係モアリ且貴地ヨリハ積荷モ無キ筈

ナレハ此ノ際多少ノ不便モ忍ビ右二船ニテ間ニ合フ様可然引揚者良

導方御配慮相成度シ

大臣へ轉電セリ

0075

秘

昭和12 一九二九 暗 臺北 十八日後發 本省 八月十八日夜着 亞

廣田外務大臣 坂本臺灣外事課長

第一二〇號

本官發廈門宛電報

第三三號

貴電第三一號ニ關シ

福建丸ハ間ニ合ヒ兼ネタルニ依リ十九日、香港丸及廣東丸ハ二十日

何レモ貴地入港引揚者收容ノ上基隆ニ歸航セシメ更ニ各船トモ折返

シ基隆ヨリ貴地へ出帆セシム

大臣へ轉電セリ

電信寫

0076

REEL No. A-0234

電信寫

電信寫 一九三〇

本館 八月十八日夜着

廣田外務大臣

坂本臺灣外務部長

第一一九號

廣州發本官宛電報

第九七號

大臣へ轉電アリ候シ

第一五一號

當地引揚ニ依ル男子引揚者約七百名ノ概算ニテ長沙大球ノ二船ニテ
ヘ足ラサルニ付盛原丸モ折返シトシ三隻十九日當地入港方至急御手
配ノ上結果御回電請フ(了)

0077

REEL No. A-0234

秘

昭和12 一九三〇四

暗

青島 十八日後發
本省 八月十八日夜着

亞

廣田外務大臣

大鷹總領事

第三八七號

貴電第一二九號ニ關シ

當地郵船支店ハ三等限り無賃乗船方又商船支店ハ一、二、三等何レモ三等並ニシ選賃後拂ヒトシ無賃乗船方本社ヨリ命令アリタル趣ナルカ兩社間ニ差別的措置アルハ面白カラストシ郵船モ商船ト同様取扱ヲ爲スコトトナシルカ(十九日ヨリ)之カ爲引揚者ハ急ニ増加シ大体豫期ノ目的ヲ達スルニアラスヤト思考シ居ル處大連行ハ右如キ取扱ナク甚々不公平ト存セラルルニ付大連汽船ニ對シ適當ノ航海限リ無賃乗船ヲ取扱ハシムル様至急御取計相煩度シ(了)

電信寫

0078

秘

電信寫

昭和12 一九三〇六 暗

河内 八月十八日 夜着

電

廣田外務大臣

宗村總領事

第四六號

往電第四三號ニ附シ

及印ハ十八日森水(理髮屋)ハ十九日雲雨ヲ引揚ケ又張ハ私用ノ

為通一箇月向地ニ居タル越前國領事ヨリ真越鐵道會社經由電報アリ

タリ

上條へ電セリ

0079

REEL No. A-0234

電信寫

昭和12 一九三〇九 臺北 十八日午後發 亞

廣田外務大臣 坂本臺灣外事課長

第一二一號

福州發 不恒宛電報

第九九號

大臣へ轉電アリ度シ

第一五二號

貴電第六七號ニ關シテハ往電第九七號ノ通り二般ニテハ問ニ合ハサルニ付三般配船方御手配請フ(了)

0080